

# 幼稚園・小学校における教育相談の現状

## —担任が行う教育相談—

曾我部 和 広  
曾我部 多 美

### 1 はじめに

幼稚園は、幼児が最初に出会う学校である。幼稚園での生活は、今まで家庭の中で保護者と共に営まれていた生活とは異なり、自分一人でやり遂げなければいけないことが出てきたり、解決しなければいけないことに出会ったりする。また、決まりを守ったり、他の人の思いを大切にしなければいけなかったりと、家庭生活と同じように自分の意志が通せるとは限らない状況を経験する。小学校も同様で、大きな集団生活の中で、人間関係も広がり、守るべきルールも多様で複雑になる。このような新たな生活の広がりや、幼児や児童にとっては、期待と同時に不安や緊張感をもたらすことにもなる。また、それぞれの子供たちに、このような環境から、発達の特徴が表れるようになる時期でもある。保護者は、直接見る他の子供たちとかかわる我が子の姿や担任から伝えられる幼稚園や学校での様子やトラブルから、不安を感じ、相談をするようになる。幼児・児童が安心して集団生活を営むためには、教育相談は重要な位置を占める。

以下、幼稚園や小学校で行われている相談の種類と相談内容の概要を示す。

#### (1) 担任が行う教育相談の種類

##### ①全園児・全児童を対象とした面談

二者面談・三者面談

②全園児・全児童の保護者を対象にした面談

家庭訪問・二者面談

③特定の園児・児童・保護者を対象とした教育相談

必要に応じてのチャンス相談（幼稚園の園児は毎日の登園・降園時を利用）

声掛け相談（二者相談）、グループ相談（小学校では友達グループで）

④その他、園児・児童や保護者からの申し込みによる教育相談

面接による相談 電話による相談、連絡帳・手紙による相談

(2) 幼稚園・小学校で、担任が受ける具体的な相談内容

幼稚園・小学校での教育相談の内容

項目	幼稚園	小学校
子供の特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人見知りが激しい</li> <li>・新しいことに挑戦することが苦手</li> <li>・慣れるのに時間がかかる</li> <li>・集中力がない</li> <li>・我慢できない</li> <li>・母子分離ができない</li> <li>・トイレで排尿できない（おむつがとれない）</li> <li>・排便が一人でできないので、小学校に入ってからが心配</li> <li>・困ったことがあると洋服をかむ癖がある</li> <li>・癇癪を起す</li> <li>・物を投げる</li> <li>・震えるほど怒る</li> <li>・3歳児健診で引かかったので、園での様子を知りたい</li> <li>・心配性で何でも気にし過ぎる</li> <li>・出来ないと泣く</li> <li>・夜尿症が治らない</li> <li>・集団行動ができない</li> <li>・多動</li> <li>・暴力を振るう</li> <li>・神経質で何度も手洗いをする</li> <li>・集団生活ができない</li> <li>・切り替えて行動ができない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極性がなく、何事にも消極的なところが気になる</li> <li>・慣れるのに時間がかかる</li> <li>・集中力がない</li> <li>・すぐ飽きて、いろいろな物に手を出す</li> <li>・我慢ができない</li> <li>・集団行動が苦手</li> <li>・すぐかっとなる</li> <li>・癇癪を起す</li> <li>・物を投げたり、壊したりする</li> <li>・心配性で不安が強く気になる</li> <li>・出来ないことがあると、すぐあきらめる</li> <li>・多動で、落ち着きがない</li> <li>・友達や家族に暴力を振るう</li> <li>・神経質で何度も手を洗う</li> <li>・行動の切り替えができない</li> <li>・一人遊びが多い</li> <li>・場が読めなくて、相手を傷つける言葉を何気なく言うので、友達からからきられていないか</li> <li>・話すタイミングがつかめない。話している人を遮って話すことが多い</li> <li>・同じ事をして何度も叱られる</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きなことはするが、やりたくないことはしない</li> <li>大きな音が苦手、音に過敏</li> <li>集団に馴染まない</li> <li>探し物ができない</li> <li>マイペース</li> <li>気に入らないと泣く、暴れる</li> <li>不器用でクレヨンで塗れない</li> <li>顔の絵が描けない</li> <li>左右が分からない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>不安が強く、登校を渋る</li> <li>嘘をつくことが多い</li> <li>友達の誘いが断れない</li> <li>整理整頓ができない</li> <li>落し物が多く、筆箱の中の鉛筆や消しゴムがよくなくなる</li> <li>先生の話がしっかり聞けない</li> <li>幼稚園でも言われたが、先生の指示が理解できない</li> <li>おしゃべりが多く、話を聞かない</li> <li>不器用で細かい作業ができない</li> </ul>
言葉・発音	<ul style="list-style-type: none"> <li>さ行が発音できない</li> <li>言葉が理解できない</li> <li>吃音がある</li> <li>幼稚園では、声を出さない</li> <li>話さない</li> <li>言葉が遅い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>吃音がある</li> <li>話したい事をまとめて話せない</li> <li>場面緘黙</li> <li>た行とか行が逆転している</li> <li>言葉の意味が理解できない</li> </ul>
交友関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ園児と何度もトラブルを起こす</li> <li>友達と遊べない</li> <li>友達が固定している</li> <li>ほしいものがあると、「貸して」と言わないで、お友達をたたいて取り上げる</li> <li>友達の名前が覚えられない</li> <li>友達がいないと言う</li> <li>一人遊びが多く、複数の友達と関われない</li> <li>大人との関わりは持てるが同年齢の子供と関われない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家で遊ぶ友達がいない</li> <li>いじめられている</li> <li>友達によくからかわれる</li> <li>学校の休み時間に、友達と遊んでいない</li> <li>特定の友達が嫌で、学校に行きたくないという</li> <li>悪口をよく言われ、泣いて家に帰ってくる</li> <li>友達によく物を取られたり、隠されたりする</li> <li>専科の授業でトラブルが多い</li> <li>友達にからかわれやすい</li> </ul>
兄弟関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲が良くない</li> <li>喧嘩が多い</li> <li>物を取り合う</li> <li>下の弟や妹を叩いたり、蹴ったりする</li> <li>兄や姉のまねをし、自分の力に合わないことをしたがる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲が良くない</li> <li>喧嘩が多い</li> <li>兄や姉と同じ事をしたがる</li> <li>弟や妹と同じ物を欲しがると</li> </ul>
子育てへの不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>育てにくい</li> <li>感情的に叱ってしまう</li> <li>子供への接し方がわからない</li> <li>兄弟で比較してしまう</li> <li>注意するとすぐ泣く</li> <li>叱られることを嫌がる</li> <li>父親の言うことは聞かぬが、母親の言うことは聞かない</li> <li>祖父母に甘やかされていて、父母の言うことは聞かない</li> <li>叱り方がわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言うことを聞かないので、叱ることが多くなる</li> <li>反抗的なので、手が付けられない</li> <li>昼夜逆転していて、朝起きることができない</li> <li>ゲームのやり過ぎを止めたい</li> <li>学校に行こうとしないので、説得するのが大変</li> <li>部屋に籠って出てこないで、言い争いになる</li> <li>家の手伝いを全くしないので困る</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>•小さい子でもなぜだめなのか理由を話した方がよいのか、子どもの扱い方がわからない</li> <li>•いくら話しても、約束やルールが分からない</li> <li>•相手に対して嫌なことばかりする</li> <li>•偏食が多く、食が細い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•万引きをした持ち物を見つけ、子育てに自信を無くした</li> <li>•叱った方がいいのか、諭した方がいいのかわからない</li> <li>•約束が守れない</li> <li>•「してはいけない」と注意される事ばかりする</li> <li>•偏食で、給食が嫌で学校に行きたがらない</li> </ul>
学 習	<ul style="list-style-type: none"> <li>•読み聞かせが嫌いで、本に興味がない</li> <li>•左右がわからない</li> <li>•手遊びやお遊戯の順番が覚えられない</li> <li>•歌が歌えない</li> <li>•鍵盤ハーモニカの演奏で指使いがうまくできない</li> <li>•糊を伸ばして貼れない</li> <li>•はさみが使えない</li> <li>•文字が書けない</li> <li>•文字が読めない</li> <li>•発言ができない</li> <li>•鉛筆が正しく持てない</li> <li>•聞いたことをすぐ忘れる</li> <li>•小学校進学が不安</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>•文字を書くのを嫌がる</li> <li>•文字がきれいに書けない</li> <li>•本を読もうとしない</li> <li>•拗音や拗長音がわからない</li> <li>•宿題をしない</li> <li>•授業についていけない</li> <li>•学習の遅れを感じる</li> <li>•学習したことをすぐ忘れる</li> <li>•何度教えても、定着しない</li> <li>•テストの点数が気になる</li> <li>•国語の教科書が読めない</li> <li>•漢字を書くことが苦手</li> <li>•算数の計算が苦手</li> <li>•学習についていけない</li> <li>•リコーダーが吹けない</li> <li>•中学校進学が不安</li> </ul>

上記のように相談内容は多岐に渡る。幼稚園も小学校も「子供の特性」にかかわる相談は多く、幼稚園では、育てにくさや発達に関する相談、小学校では、友達とのかかわりや学習に関する相談が増えていくことが分かる。

ここでは、幼稚園や小学校での教育相談の現状やあり方に触れながら、初めて教育相談を経験する教師も、日々の実践を通して活用したり、役立たせたりすることができるように述べていく。

## 2 幼稚園・小学校の教育相談

社会の変化とともに保護者の価値観やニーズも変わり、社会環境の急激な変化、様々な感染症の流行・拡大もあり、子供の問題行動は増えている。それだけに、教育相談の基礎知識をもち、ある程度の対応方法に習熟して

いることは、担任教師にとって必要な力となる。

教育相談という言葉は、スクールカウンセラーであったり、養護教諭であったりと、相談を受ける側によって様々な使われ方をする。ここでは担任が行う教育相談を考えていくが、担任が行う場合、教育相談を受ける対象は、学級の子供たち全てとなる。そのため、教育相談は教育活動の一環となる。教師としてよい指導ができること、良い授業や保育活動を行うことは、子供や保護者の信頼につながる。信頼を得ることで保護者からの教育相談も増え、その相談に応えることで、担任の教室での指導や話も受け入れられるようになる。

教育相談では、相手の心や気持ちに目を向けていくことが必要であるが、それは授業や保育の時と同様で、授業や保育の中でも一人一人の子供たちに目を向けることで、子供たちの行動や考えていることが、より一層わかるようになる。日々の幼児・児童への指導がそのまま教育相談での対応方法と結びついていく。

## (1) 教育相談と生活指導

三年保育のため、組織の小さい幼稚園では、校務分掌が細かく別れていないことが多く、教育相談の方針や外部との連携は、教頭・副園長や園長が担当するが、小学校では教育相談は校務分掌の生活指導に位置付けられている。文部科学省生徒指導提要（平成22年）では、「生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動」とされている。教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活に適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るものであり、特定の教員だけが行う性質のものではなく、相談室だけで行われるものでもない。これら教育相談の目的を実現するためには、発達心理学や認知心

理学、学校心理学などの理論と実践に学ぶことも大切になる。

また、学校は教育相談の実施に際して、計画的、組織的に情報提供や案内、説明を行い、実践する。児童の行動に対する指導や、学校・学級の集団全体の安全を守るために管理や指導を行う部分は生活指導の領域であるが、一方、指導を受けた児童にそのことを自分の課題として受け止めさせ、問題がどこにあるのか、今後どのように行動すべきかを主体的に考え、行動につなげるようにするには、教育相談での面接や、発達心理学、臨床心理学の知見が、指導の効果を高める上で重要な役割を果たす。教育相談と生活指導は重なるところが多くあるが、教育相談は、個々の子供たちへの指導の一環として位置付けられるものであり、その中心的な役割を担う。

教育相談と生活指導の相違点としては、教育相談は主に個に焦点を当て、面接を通して個の内面の変容を図ろうとするのに対して、生活指導は主に集団に焦点を当て、行事や特別活動などにおいて、集団としての成果や変容を目指し、結果として個の変容に至る。児童の問題行動に対する指導や、学校・学級の集団全体の安全を守るための管理や指導を行うのは生活指導の領域である。教育相談と生活指導は車の両輪であり、全体への指導を、児童一人一人の行動に生かすためには、教育相談は重要な役割を担う。

## (2) 学校における教育相談

学校の教育相談として扱われるのは、いじめ、不登校、非行などの問題を抱える児童、学習や友達関係、家庭の問題等で不適應になり始めている児童、まだ非行や欠席など具体的な行動には表れていないが、心配な児童を対象としている。(幼稚園・小学校で、担任が受ける具体的な相談内容表参照)また、日々の教育相談は、表面上は特に問題なく元気に学校生活を送っている多数の児童に対しても、児童一人一人の問題の早期発見・早期対応のために、学校生活への適應やよりよい人格の向上を目指して行わ

れる。担任は日ごろから児童を観察し、日々の変化、交友関係、家庭環境や成績など多くの情報を得ることができるため、問題が大きくなる前に、予防として相談体制をとることができる。

学校では、様々な教育活動が展開しているため、教育活動にかかわるスタッフとなる教員も多岐にわたる。そのため、教育相談は、児童がかかわるそれぞれの場所でも行われる必要がある。従って、教育相談担当教員や養護教諭、学級担任、スクールカウンセラーなどによって、全ての児童を対象に、あらゆる教育活動を通して行われることが必要である。全ての教員が、適時、適切に児童生徒の実態に応じた教育相談の体制を取っていくために、毎週・毎月行われる「生活指導（児童理解・教育相談等学校によってネーミングは異なる）の会議・研修」で確認する児童について、全教員が共通理解を図り、日々の教育活動における児童の変化をそれぞれの場で汲み取り、担任と連携を取りながら、教育相談に取り組むことが必要となる。

### (3) 幼稚園における教育相談

幼稚園は、同年代の幼児が初めて集団生活を営む場である。教師は、幼児一人一人が集団生活の中で、主体的に活動に取り組むことができるよう、指導にあたっている。幼児期は自我が芽生える時期でもあり、友達との間で、おもちゃの取り合いなど物をめぐる対立や思いの相違による葛藤も生まれやすい。また、幼児は経験を通して、相手の気持ちに気付いたり、自分の思いを分かってもらうために伝えることの大切さを学んだりしている。教師は一人一人の幼児の発達特性を理解し、集団生活の中で、幼児に友達がどんな気持ちなのかを考えさせたり、どのように行動すればよいのかを、体験を通して考えさせたりする。また、人として絶対にしてはいけないことや、言うてはいけないことに気付かせていく。さらに、集団には

決まりがあることを伝え、その決まりをなぜ守らなければいけないのかを、体験を通して気づかせたり、考えさせたりする機会を用意していく。集団生活の中で教師が行う環境構成や援助から、幼児が自分と友達の良さに気づき、自己を形成していけるようにすることが保育の中心となる。

そのような集団生活の中での子供たちの姿を見たり、日々の保育活動の様子を担当から聞いたりすることから、保護者が悩みや不安を感じ、担任への相談につながっていく。幼稚園は、送迎が保護者の手でなされるため、その機会を利用して、担任は保護者から相談を受けることが多い。小学校と違って、特別な時間を設定してというより、日々の保育活動の一環として教育相談が行われる。そのため、交友関係における問題等はタイムリーに保護者に伝えられ、トラブル解決は比較的スムーズにいくこともある。ただ、幼児一人一人の発達の特性に起因している様々な問題については、時間をとって話をしていく必要がある。個人面談は担任と保護者との双方向性のある交流の機会、意図的・計画的な活用が求められる。

### 3 幼稚園・学校における教育相談の特質

幼稚園は、子育て中の親にとって「子供の保育をする場所」というだけでなく、親が子供や子育てについてわからないことや聞きたいことを質問できる場所にもなっている。また、子育てにおけるさまざまな不安や、初めての集団生活で自分の子供がうまくやっけていけるかなど、多くのことを相談し、悩みを話せる場ともなる。核家族が主流となっている今は、子育てに不慣れな親に対して助言をする役割もあり、子供のことを相談しやすい身近な窓口として、親が親しみを持てる雰囲気、幼稚園には必要になる。

幼稚園での生活は子供にとって初めての集団生活であり、また初めて親から離れる経験でもある。慣れない環境の中でいかに子供に落ち着きを与

えられるか、親に安心感を与えられるかが重要となる。日常的な相談ではふだんの生活について、生活習慣や友達関係など、子供の園でのようすをしっかりと把握し、指導的・断定的な情報ではなく、保護者自身が考え、ヒントとなるような答え方・姿勢で対応することが望ましい。また、担任と保護者だけで問題を抱え込まず、管理職の意見を求めたり、幼稚園のスクールカウンセラーにつなげたり、専門機関を紹介したりすることも必要である。

教育相談を行うことで、見られる相談者の心の変化については、

①心が軽くなる。

今まで抑え込んでいたものを話すことで、心が楽になる。また、悩むことに費やしていたエネルギーを、解決のためのエネルギーに変えるようになる。

②心が整理される。

迷いや悩みなどを聴いてもらうことで、問題点が整理され、解決の方向が見えてくる。

③自己肯定感が高まる。

聴いてもらうことで、理解してもらえる安心感から、自己肯定感が高まり、前向きな行動をしようとする意識が高まる。

## (1) 幼稚園・学校における教育相談の利点について

①早期発見・早期対応が可能

幼稚園や小学校は一人担任で学級が経営されているため、教員は日ごろから子供たちと同じ場で生活し、子供たちを観察し、家庭環境やその子ができること、成績など多くの情報を得ることができる。そのため、問題が大きくなる前に変化に気付くことができる。本人や親が自発的に相談に来るのを待たなくても、小さな兆候（サイン）をとら

えて適切に子供たちや保護者に声をかけ、早期の対応ができる。

## ②援助資源がある

学校には、学級担任・教育相談担当教員、養護教諭、生活指導主任、スクールカウンセラーなど様々な立場の教員がいる。園児数の少ない幼稚園は、小学校ほどの援助資源はないが、スクールカウンセラー、園長、副園長・教頭は管理職としての指導・支援も行う。学校では専科教員、児童支援員、スクールソーシャルワーカー等の配置もあり、社会福祉的な視点からの見立てや支援、日常の観察やきめ細かいかわりができる。幼稚園・小学校では、援助資源を有効に活用することで、一人の幼児・児童に対して様々な教員が多様なかわりをもち、良いところを認め励ますことができる。そのことが園児・児童一人一人の育ちを支えていくことになる。

## ③専門機関との連携

教育相談の中で発達障害の可能性に気付いたり、言葉の問題を感じたりした場合には、専門家との連携と早期の対応が必要になる。幼稚園や学校では、内部の相談体制を整え、個人情報保護・管理をしっかり行い、関係機関と連携体制をつくることが重要となる。

## 4 教育相談に必要な資質・能力としての姿勢とポイント

園児・児童の問題行動の心理環境的背景にあるものに気付くためには、担任に、幼児・児童とかわる基礎的な知識や観察力が求められる。幼児・児童・保護者等相談者に適切に対応するための相談体制は、効果的な支援・対応に関する教師の姿勢と意識によって作られる。以下教師の意識・姿勢等について記す。

### ①教師の意識・姿勢

役割	意識・姿勢
カウンセリング (聞き役としての姿勢)	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神的に安定している。</li> <li>受容的な態度で接する。</li> <li>問題を抱える「困った子」ではなく「困っている子」という視点で観察し対応する。</li> <li>幼児や児童、保護者の思いを受け止め信頼関係を築く。</li> <li>問題を持つ幼児・児童に対してはコンサルテーションを行い、課題解決に向けての援助を行う。</li> <li>カウンセリングマインドを意識し、相手との関係づくりを日々積み重ねる。</li> </ul>
コーディネーション (連絡調整)	<ul style="list-style-type: none"> <li>内外の援助資源（リソース）を有効に活用して、関係機関につなげ、連携を図る。</li> </ul>

### ②子どもたちとの面談

園生活や学校生活の中で幼児・児童との短時間の関わりは多い。短い時間でも幼児・児童の心に響くようにするためのポイントは下記のようになる。

ポイント	対応方法
信頼関係	信頼関係の上に教育相談は成り立つので、日常の信頼関係づくりに努める。
タイミング	話しかけるタイミングに気を付ける。
結論を焦らない	その場で結論を出そう、納得させよう、約束させようとしない。「先生は心配している。」と伝わることだけでもよい。
フォロー	相談後のフォローは丁寧に行い、様子を継続的に観察していく。

### ③保護者との面談

教育相談における相談者との関係を作りするためには、保護者には、どんな願いや不安、悩みがあるか、背景にどんな状況があるのかを理解し共感した態度で臨む。園や学校、教師に不満を抱えている場合の相談もあるので、その時も反論するのではなく、共感的な態度で傾聴する。傾聴する姿勢をとることで心配や不安が和らぎ、学校との協力関係が形成される。適切な面談となるためのポイントは以下のようになる。

ポイント	対応方法
時間・主訴の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1時間程度を設定し、長時間にならないようにする。</li> <li>• どのようなことを相談したいのか聞き取る。</li> <li>• 相談内容によっては、相談後の対応を検討する。</li> </ul>
メンバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 園や学校が複数のメンバーになる時は、あらかじめ参加者を伝えておく。</li> </ul>
ねぎらう・謙虚に耳を傾ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保護者に、「相談していただきありがとうございます」「相談にお越しいただき、感謝します」等ねぎらいの言葉をかけ、「一緒に考えましょう」という姿勢で臨む。</li> <li>• 相槌、返事、質問などの応答を行い、真剣に聞いていることを伝える。</li> <li>• 共感的に話を聞き相手の心を丁寧に汲み取る。</li> </ul>
話し方	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 保護者の話を遮らない。</li> <li>• 教師側が話過ぎない。</li> <li>• 時々、話の内容を整理して伝える。</li> </ul>
決めつけない	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 原因を簡単に決めつけない。</li> <li>• 「そうせざるを得ない何かがあったのかもしれない」という謙虚な気持ちで聴き、簡単に断定しないようにする。</li> </ul>

#### ④電話による相談

電話で「相談したい」と言われた時は、相談をしたい相手の心情を理解し、受け入れて対応する。特に相談者の表情が見えないため、声の調子に気を付け、慎重に対応する。できれば対面が望ましいので、対面相談に結び付けていく。

##### • 相談の手順

- ①担任であることを告げ、相手を確認する。
- ②相談者の心情を汲み取り、謙虚に耳を傾ける。
- ③相槌、返事、質問などの応答で真剣に聞いていることを伝える。
- ④共感的に話を聞き相手の心を汲み取る。
- ⑤電話だけで伝わらないと感じたときは、後日再度、面談日を設定し、対面して話を聞く。

## 5 幼稚園・小学校での相談事例

ここでは具体的な相談の事例を示しながら、担任としての対応に触れる。日々の実践の中で対応する際の参考として生かしていけるようにまとめた。(掲載事例については、実例をもとに、本人が特定されないようにアレンジしてある。)

### (1) 幼稚園での相談事例

#### 【相談事例1】

「A児は、年中女子。言葉が遅く、少しずつ話をするようになっていて、下の子供が生まれ、その頃から、話始めの言葉に詰まるようになった。「『ごご飯』などと言うことが気になる。」という主訴で母親が来園する。

相談の主訴を受け、担任からは、幼稚園での様子を伝える。大人との会話でも、友達との会話でも、言葉に詰まって話せないことがあるが、担任も友達も気にしていないので、普通に明るく生活していることを保護者に伝える。

話し合いの結果、A児の気持ちを大切に、言葉に詰まっても指摘したり、直させたりしないよう、関わり方について家庭と幼稚園で気を付けることを共通理解する。また、言葉の教室等関係機関の相談窓口も紹介し、A児が専門機関での指導を受けられるようにつないだ。

#### 【相談事例2】

「B児は、年長男子。家庭では思い通りにいかないときは、ふてくされたり、怒ったりする。自分の気持ちを言葉にしない。夜尿症も続いている。育てにくさは、年中途中ぐらいから始まった。出かける前は楽しみにしているが、出かけて予想が外れると、切れて怒る。友達とは2人で遊んでいるとよいが、3人になるとうまく遊べない。」という主訴で母親が相談に来園する。

相談の主訴を受けて、担任からは、幼稚園での様子を伝える。幼稚園では協調性もあり、行動は落ち着いている。確かに友達関係は固定化され、仲の良い子といつも一緒にいるため、友達の輪が広がるようグループ分けは様々取り組んでいることを伝える。行事では、ねらいを伝えてから取り組むため、「期待外れ」といって怒ることはない。何のための活動かについては十分理解できることなど、幼稚園での生活の様子を保護者に伝える。

話し合いの結果、家庭でも丁寧に意味やなんのためにするのかといったねらいを伝えていくこと、幼稚園でも今まで以上に意識して、本児には予定を伝えてから取り組ませることを決め、定期的に情報交換を行うことを話し合う。また、夜尿症については、様子を引き続き見ていき、原因に体の機能的な問題やストレスが隠れていることもあるので、専門機関の受診も必要なのではないかと助言した。

### 【相談事例3】

「C児は、年少男児。数字が好きでいつも、数を数えている。大きな数も逆から数えることができる。数字にこだわり、友達と遊ばず、一人遊びが多い。」という主訴で母親が相談に来園する。

相談の主訴を受けて、担任からは、座って担任の話を聞くことが難しく教室から園庭に出たりすることがあること、活動が変わっても切り替えが難しいことなど、幼稚園の様子を伝える。

話し合いの結果、本人の興味が高い数字と関わる力を大切にしながら、興味や関心が他のものにも向けられるようにしていくことに決める。

興味が限定されていることが、E児の特性に関わる場合もあるので、幼稚園のスクールカウンセラーや教育委員会関係の相談機関を紹介した。

## (2) 小学校での相談事例

### 【相談事例1】

「D児は、1年生男子。家庭で落ち着きなく動き回ることが多く、集中が続かず家庭学習や宿題に取り組めない。」という主訴で母親が相談に来校する。

相談の主訴を受けて、担任からは、授業中座って担任の話聞くことが難しいこと、興味を持ったことには集中できるが、そうでないことには長く取り組むことができず友達に話しかけたり、教室から出たりすることがあること、また、自分の話したい事を、遮られてもしゃべり続けるなど、休み時間等学校生活の様子を保護者に伝える。

話し合いの結果、本人の興味をもてることを探して、学校でも家庭でも取り組ませることを決め、定期的に情報交換を行うことを話し合う。また、集中できないことがD児の特性と関わる場合もあるので、学校のスクールカウンセラーや教育委員会関係の相談機関を紹介した。

### 【相談事例2】

「E児は、3年生女子。学校への登校を渋るようになった。体育のある朝は起きてこない。無理やり起こすとトイレにこもって出てこない。困り果てている。」という主訴で母親が相談に来校する。

相談の主査を受け、担任からは、学校ではとても元気に過ごしている。体育の時間も積極的に体を動かしていることを伝える。家庭と学校の様子が違うことから、不安がどこから来ているか確認するために、担任と本児との2者面談を行うことになった。登校を拒否している発症要因と継続要因をE児との面談から、聞き取ることにする。

翌日E児との面談を行う。体育の時間にマット運動がうまくできなかったことがあり、友達に言われたことがきっかけで、体育が嫌いになった。

体育があると、また誰かに何か言われるのではないかと不安になり、学校に行きたくなくなることが分かる。

担任として、道徳の時間や学級指導を活用して他の児童を指導する。

## 6 おわりに

社会環境の変化、家庭環境の変化により、教育相談の内容も変化してきている。特に近年は、インターネットの発展により、色々な情報がすぐに手に入り、それを基に不安を募らせる保護者も増え、特に発達障害などの特性に関する相談が多くみられる。

教師は、法律や医学などの最新の情報を得ながら、対応していくことが求められる。しかし、教育現場では、社会の変化に対応しきれておらず、自分の古い知識や経験だけに頼って対応しようとする教員も、残念ながら少なからずいる。教育相談は、子供の将来にも関わる大切な活動であることを忘れず、常に研鑽を積み、関係機関と連携しながら取り組むことが必要である。

(注) 本論文は、曾我部和広が全体の監修を行い、本文は曾我部多美が執筆した。

## 参考文献

足利市立教育研究所「学校における教育相談ハンドブック」2013

神保信一、中西信男、國分康孝、飯嶋英太郎、日野宣千、糸永義明、松原達哉、谷口正己「特集担任による教育相談の手引」教育心理VOL.34-NO.11-1986 p.848-871

文部科学省「生徒指導提要」2011 教育図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018 フレーベル館